

使徒継承

アンティオキアにおける聖ペテロから、シリア正教会アンティオキア総主教庁を経て、現在に至る

この継承の系譜に連なる

主教*

Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D. ‡

諸国民への主教、使徒的委任のもとに

1. 聖ペテロ、使徒、殉教者 CO

紀元30年頃キリストに召された。アンティオキアの初代主教

聖書に名が記されている：「汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん」(マタイ伝福音書16:18)。アンティオキアにて（ガラテヤ人への書2:11）

この使徒継承の系譜は、紀元30年頃の使徒ペテロから今日にまで及び、2026年現在で1,996年にわたる。

聖ペテロからアンティオキア総主教 Ignatius Peter IV に至る継承は、シリア正教会が保持するアンティオキア総主教の名簿に従っている。これは、同教会が自らの使徒継承をアンティオキア初代主教聖ペテロにまでたどるのと同じ名簿である。

主教職への聖別は、以下に名を挙げる諸教会を通じて、一人から次の一人へと行われた。

この系譜の主教の中には、聖人としても崇敬されている者がいる。その名の傍らの印は、生涯の聖性のみにかかわる。それはいかなる聖別の有効性にもかかわらない。聖人として崇敬されているか否かにかかわらず、表に挙げたすべての主教は、継承において等しくその位置を占めている。

聖 聖人：英雄的な聖性の生涯を送り、今は神のもとにある者として教会が公に崇敬し、その記憶を暦において記念する人。初代教会では、聖

人は信徒とその主教たちの称賛によって認められた。のちには、ローマ・カトリック教会では正式な列聖によって、正教会では列聖（glorification）によって認められるようになった。

福者 福者：ローマ・カトリック教会において、列福された人。列福は聖人としての列聖に先立つ正式な段階である。

C ローマ・カトリック教会により聖人または福者として崇敬されている。

O 正教会により聖人として崇敬されている。

CO ローマ・カトリック教会と正教会の双方で聖人として崇敬されている。

赤 殉教者：信仰のために命をささげた者。

誰が聖人であるかについて、諸教会の見解は常に一致するわけではない。ある教会が、他の教会が崇敬しない人を崇敬することもあり、印はそれぞれの聖人をどの教会が崇敬しているかを示している。

アンティオキア

「弟子たちのキリステアンと稱へらるる事はアンテオケより始れり」（使徒行伝11:26）と記されたアンティオキアの主教座。聖ペテロがローマに赴く前に創設した。聖ペテロの後を継いだ聖エウオディオスから、シリア正教会とギリシャ正教会が共に数える最後の総主教 Severus に至るまでの、アンティオキアの主教および総主教たち。

2. 聖エウオディオス CO 53
3. 聖イグナティオス CO 殉教者 68
4. Heron I 100
5. Cornelius 127
6. Heron II 151
7. 聖 Theophilus CO 169
8. Maximus I 188
9. 聖 Serapion CO 191
10. 聖 Asclepiades CO 212
11. Philetus 218
12. Zebinus 232
13. 聖 Babylas CO 殉教者 240
14. Fabius 253
15. Demetrian 256
16. Amphilochius 263
17. サモサタの Paul 267
18. Domnus I 270
19. Timaeus 273
20. Cyril 277
21. Tyrannion 299
22. Vitalius 308
23. 聖 Philogonius CO 314
24. Paulinus 324
25. 聖 Eustathius CO 325
26. Eulalius 332
27. Euphronius 333

28. Flacillus 334
29. Stephen I 341
30. Leontius 345
31. Eudoxius 350
32. 聖 Meletius CO 354
33. Anianus 357
34. Euzoius 360
35. Dorotheus 370
36. Paulinus II 371
37. Vitalius II 376
38. 聖 Flavian I CO 384
39. Porphyrius 404
40. Alexander 408
41. Theodotus 418
42. John I 427
43. Domnus II 443
44. Maximus II 450
45. Basil 459
46. Acacius 459
47. Martyrius 461
48. 縮絨工 Peter 465
49. Julian 466
50. John II 475
51. Stephen II 490
52. Stephen III 493
53. Calandion 495
54. John Codonatus 495
55. Palladius 497
56. Flavian II 505
57. Severus 513

シリア正教会総主教庁

518年のSeverusの罷免以降、シリア正教会のアンティオキア総主教たち（同教会が保持する名簿による）から、Ignatius Peter IVに至る。Ignatius Peter IVは1877年、インドの教会のためにコッタヤム主教Paulose Mar Athanasiusを聖別した。

58. テラの Sergius 544
59. 黒の Paul II 564
60. カリニコスの Peter III 581
61. Julian II 591
62. Athanasius I Gammolo 595
63. セドラ祈祷文の John III 631
64. Theodore 649
65. Severus II bar Masqeh 668
66. Athanasius II Baldoyo 684
67. Julian III 687
68. Elias I 709
69. Athanasius III 724
70. Iwannis I 740
71. George I 758
72. Joseph 790
73. ティクリートの Quriaqos 793
74. Dionysius I Telmaharoyo 818
75. John IV 846
76. Ignatius II 878
77. Theodosius Romanus 887
78. Dionysius II 897

79. John V 910
80. Basil I 923
81. John VI 936
82. Iwannis II 954
83. Dionysius III 958
84. Abraham I 962
85. John VII Sarigta 965
86. Athanasius IV Salhoyo 987
87. John VIII bar Abdoun 1004
88. Dionysius IV Yahyo 1031
89. John IX bar Abdun 1049
90. Athanasius V Yahyo 1058
91. John X bar Shushan 1064
92. Basil II 1074
93. John bar Abdun 1075
94. Dionysius V Lazarus 1077
95. Iwannis III 1086
96. Dionysius VI 1088
97. Athanasius VI bar Khamoro 1091
98. John XI bar Mawdyono 1130
99. Athanasius VII bar Qatra 1139
100. シリア人 Michael I 1166
101. Athanasius VIII bar Salibi 1199
102. John XII 1208
103. Ignatius III David 1222
104. Dionysius VII Angur 1252
105. John XIII bar Ma'dani 1252
106. Ignatius IV Yeshu 1264
107. Philoxenus I Nemrud 1283
108. Michael II 1292
109. Michael III Yeshu 1312
110. Basil III Gabriel 1349
111. Philoxenus II 1387
112. Basil IV Simon 1421
113. Ignatius Behnam Hadloyo 1445
114. Ignatius Khalaf 1456
115. Ignatius John XIV 1484
116. Ignatius Noah 1494
117. Ignatius Yeshu I 1509
118. Ignatius Jacob I 1512
119. Ignatius David I 1519
120. Ignatius Abdullah I 1521
121. Ignatius Ni'matallah 1557
122. Ignatius David II Shah 1576
123. Ignatius Pilate 1591
124. Ignatius Hidayat Allah 1598
125. Ignatius Simon 1640
126. Ignatius Yeshu II 1655
127. Ignatius Abdulmasih I 1662
128. Ignatius George II 1687
129. Ignatius Isaac II 1709
130. Ignatius Shukrallah II 1723
131. Ignatius George III 1746
132. Ignatius George IV 1768
133. Ignatius Matthew 1782
134. Ignatius Yunan 1817

135. Ignatius George V 1819

136. Ignatius Elias II 1838

137. Ignatius Jacob II 1847

138. Ignatius Peter IV 1872

インド、セイロンおよびアメリカ合衆国

Paulose Mar Athanasius から、各主教はその前に掲げた主教によって聖別された。1892年、Mar Athanasius と Mar Julius I は、パルマラの聖グレゴリオス（Gregorios）と共に、総主教の許しにより、セイロンのコロンボにおいて Joseph René Vilatte を聖別した。

139. Paulose Mar Athanasius 1877

140. Antonio Francisco Xavier Alvares (Mar Julius I) 1889

141. Joseph René Vilatte (Mar Timotheos) 1892

142. Francis John Edmund Barwell-Walker 1923

143. Emile Rodriguez y Fairfield 1961年頃

144. Nils Bertil Alexander Persson 1986

145. Samuel Guido, Jr. 2004

146.

Garland F. Byers, Jr.

2013

シリア正教会アンティオキア総主教と共有する継承

現在のシリア正教会アンティオキアおよび全東方総主教である総主教Ignatius Aphrem IIとバイヤーズ主教とは、アンティオキアにおける聖ペテロから総主教Ignatius Peter IV（1872–1894年アンティオキア総主教）に至るまで、同じ使徒継承の系譜を共有している。総主教Peter IVは、両系譜がそれぞれ由来する主教たちを自らの手で聖別した。総主教Aphrem IIの系譜においては、1872年に、のちの総主教Ignatius Abded Aloho IIであるGregorios Abded Alohoを、バイヤーズ主教の系譜においては、1877年に、コッタヤムの主教Paulose Mar Athanasiusを聖別したのである。

聖職

按手

奉仕

2013年4月20日、Lutheran Orthodox Church, Inc.において主教聖別を受け、その後同団体におい

2008年8月17日、按手により。ペンシルベニア州パーマートンのSt. Paul's Lutheran Orthodox Chapelにて。

主教聖別

2013年4月20日、聖餐の執行の中で按手により。St. Paul's Lutheran Orthodox Chapel（この日はペンシルベニア州スラティントンのAmerican Legion Post 16で集会）にて。

主聖別者

主教 Samuel Guido, Jr.

共同聖別者

Bradley A. Varvil 主教

Michael Byus 主教

James Thompson 主教

按手および主教聖別の証書は、主教聖別の写真とともに、主教についてのページに掲載されている。

て Western North Carolina 教区の大主教を務めた。バイヤーズ主教は現在、同団体に所属していない。

名誉神学博士（honoris causa）、Lutheran Orthodox Church, Inc. より授与、2013年4月20日。



本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：ウィキソース。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「……」で示しています。

聖ペテロ、『ラブラ福音書』（フォリオ13v）の昇天のミニアチュールより。同書は紀元586年にシリアのザグバの聖ヨハネ修道院で完成したシリア語の福音書写本である。フィレンツェ、メディチ家ラウレンツィアーナ図書

館（Biblioteca Medicea Laurenziana、Plut. I, 56）。 Wikimedia Commons経由、パブリックドメイン。原画からトリミングおよびサイズ変更を施した。